

TOKIWA

2021

WINTER

vol.202

INTERVIEW

ときわ園でボランティアを続けて



特別養護老人ホーム
ときわ園

法人理念：利用者が尊厳を保ち、安心して暮らせる福祉施設をめざす

ときわ園に来て良かった、ときわ園にいるので安心できて幸せだと思っていただけるような明るく温かい福祉施設をめざします。

INTERVIEW

ときわ園でボランティアを続けて

ときわ園では、多くのボランティアの方々が活動してくださっています。今回は、長年活動してくださっている、長澤明夫様にインタビューしました。

ー ときわ園でボランティアをするようになって何年になりますか？

62歳の時に始めて10年になります。途中、休んだ時期もありましたので、実際は8年くらいになると思います。

ー ときわ園では、どのような作業をしておられますか？

おもに外回りの作業をしています。掃き掃除や芝刈りや竹の伐採など、広大な敷地なので一年中することがあります。

ー ときわ園でボランティアになったきっかけはなんですか？

私の母が平成3年の初めにときわ園に入居し、平成25年の10月に亡くなるまで23年近くお世話になったので、恩返ししたいという気持ちがずっとありました。母に会いに来ながらスタッフの様子を見ていて、何か手助けしたい、何かお返ししたいという気持ちになってきたんだと思います。

ー これまでの活動の中で印象に残っていることがありますか？

最初とはとにかく大変でした(笑)。敷地内の草がぼうぼうで、どこから手をつけたらいいのかという状況でした。最初に敷地内のU字溝の掃除をやった時に、外作業のイメージがはっきりして「やるべきことが見えてきたな」と感じました。“これから開拓してい

く”という感じでしたね(笑)。

ー 長澤さんにとって、ときわ園はどんな場所ですか？

私が感じるのは、理事長さんや施設長さんをはじめ皆さんが一貫して“心があった”と言いますか、心のこもった介護ができていう感じを受けます。ほめすぎかもしれませんが、“本当の心”がなかったらここまでできないでしょうね。私は一般企業の中で働いてきて『中の人たちの気持ちが組織の体質を変える』ということを見てきましたので、ときわ園がそういう意味で一貫して気持ちのある方がずっと引き継いでいていらっしゃるのかなという感じがします。

ー ときわ園に期待したい事はありますか？

今の良い状態を壊さないで保っていただきたいです。制度が変わって介護施設にとって難しいことも起きてくると思うんですけど、ユートピアを目指すようなところは残していてもらいたいと思います。

ー これからボランティアをしたいと思う方々へ一言お願いします。

私は、作業の終わりに「ありがとうございます」と言って帰るようにしていますんですけど、“こんな僕を受け入れて、働かせてもらってありがとうございます”



長澤明夫様

というのが正直な思いでもあります。私にとってボランティアは、自分の精神衛生上、健康を保っておくための一つの要素でもありました。『ボランティアは、辛いことや嫌なことがあっても理性で良いことをやるんだ、自分で決めてやるんだ、心の中から出てきたものとはちょっと違うんだ』ということを伝えたいと思っています。本当の気持ちは楽をしたいし得をしたいというのは誰でもあると思いますが、それをなんとか乗り越えて行うというのがボランティアの一面だと私は思います。

退職以来のんびりと生活しているので、週一度きりではあっても、私にとってボランティア活動は社会参加のための貴重な機会になっています。そんな場を与えてくださる「ときわ園」の皆さんに対しては、感謝しなければと常々思っています。

本日はインタビューに応じてくださりありがとうございました。

年頭のご挨拶

2021年を迎え、新型コロナウイルスに罹患された方々、感染者の発生により多大な影響を受けておられる病院や福祉施設の皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

令和2年の年頭では、今年がオリンピックイヤーで大いに盛り上がる年になると期待を膨らませておりましたが、実際にはコロナウイルスという新たな感染症との闘いに終始する年となってしまいました。誰も予想することができなかった未曾有の大災害とすることが出来ます。新しい日常という言葉も生まれ、世界はコロナ前の状態には戻れないと語っている専門家も少なくありません。

ときわ園では、これまで本誌でもご紹介しましたが、コロナウイルス感染予防に関して考え得るあらゆる対策を講じて参りました。しかし「絶対に大丈夫」という保証はなく、目に

見えない敵との戦いは本当に大変で、日々不安を感じております。

現在、ワクチンの開発や製造が急がれており、日本でも近々ワクチンが輸入され、接種が開始されることになると思いますが、コロナとの闘いに打ち勝つにはどのくらいの期間がかかるのか誰にも分からず、まだまだ不安な日々が続きます。早くトンネルの出口が見えることを願ってやみません。

今年はどういう年になるのでしょうか。誰もが平穏で安全に暮らすことを望んでいますが、「思いも寄らないことがいつ誰にでも起きる」という格言の通り、自分は被害に遭わないと言い切れる人は誰もいません。しかし、不安や消極的な気持ちを抱き続けていると力が奪われてしまいます。一方、「希望は命のための錨」と言われています。希望は船の錨

理事長
三枝 弘朋



のような働きをします。希望を持っているなら嵐のような感染症や様々な問題に耐える力を得ることが出来ます。今経験している問題はいずれなくなりますし、将来、何かの糧になることさえあります。そのような前向きな気持ちを持ち続けていきたいと感じております。

今年は皆様にとって喜びの多い一年になることを願っております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



田貫湖と富士山 2020年1月三枝理事長撮影

主任・リーダー研修から考えるチームとしてのときわ園

昨年10月から本館1階主任となりましたが、主任となって初の「介護主任・リーダー研修」を受講しました。社会福祉法人の概要から社会情勢、ときわ園の理念、主任・リーダーの役割等、多岐にわたる内容で、三枝理事長からの講義でした。

その中で一番印象に残ったのが「どんな施設にしたいか」という問いかけでした。私の答えは、『一番は、ときわ園にいらっしゃる利用者が安心して生活できることが大事だと思います。しかし、それと同じぐらいに職員

の労働環境、働きやすさも大事である』というものです。利用者があっての職員だと思いますし、どちらかが欠けても成り立たないと私は思いました。また、施設上の色々な立場をも超えるぐらいの一体感の構築「チームとしての一体感」が必要ではないかと思います。お互いに支え、支えられの人生の中で、誰かのために生きること、頑張れること、誰かを笑顔にしたいなど、みんな想いは人それぞれです。その「想い」を共有することができれば、ときわ園として、さ

本館1階介護主任
中村 和裕



らなる「幸せ」が生み出されるのだと思います。「チームの一体感」「想いの共有」「幸せ」をキーワードに主任として働いていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。



デイサービスの活動

デイの利用者の多くの方々は、畑仕事をした経験があったり、庭の手入れが好きだったりしますので、デイのお庭でも喜んで作業していただきます。秋野菜の収穫を楽しんだり、草木の手入れをしたり、にぎやかなひとときを過ごしていただいております。



“昔取った杵柄”で手際が良いですね。



I バランス能力訓練



I 上肢・下肢 筋力増強訓練



I 下肢筋力訓練



II 昇降動作訓練



II 跨ぎ動作訓練



芝・砂利・坂等の対応が出来る屋外歩行訓練



I 上下肢の可動域訓練



11月に赤カブを収穫できました！



II 高所物へ手を伸ばす訓練



II 床からの立ち上がり動作訓練



II 巧緻動作訓練

コロナ禍のもとで支え合う —利用者のご家族の絆

コロナウイルス感染症の影響により、ときわ園でも面会が中止となりました。外出やイベント等にも制限がかかり、ご家族にも会えず利用者の方々も寂しい思いを感じられていることと思います。

現在ときわ園で最高齢の丹ノブ様。102歳という年齢を感じさせないほどお元気で、職員も利用者もいつも丹様からパワーをもらっています。

そんな丹様もコロナのもとで家族と会えない日々が続き、食事量の低下がみ

られてきました。息子さんが持ってきたものだけは食べるという丹様のことを考え、多職種や家族との相談のもと感染症対策を行い、ご家族との面会を再開して差し入れの提供を行っています。「息子さんが持って来てくれましたよ」と伝えると、「あら、本当？おいしいわね」とうれしそうに召し上がっています。

息子さんたちのことが大好きで、顔を見ると「あらあ」とうれしそうな笑顔が見られます。日々の面会時を楽しみに

新館2階介護職員
澤田 愛美



されており、家族と共に過ごす時間が丹様にとって何よりも大事な時間となっていました。これからも丹様が笑顔で過ごせるようにご家族の協力のもと、介護に携わっていかれると思います。



丹ノブ様 息子さんたちと一緒に

個別機能訓練Ⅰをスタートしました デイサービスセンター こもれば

デイサービスセンターこもればでは、利用者の自立支援、日常生活の向上、ご家族の負担軽減を目的とし令和2年11月より、これまで提供していた個別機能訓練Ⅱに加え個別機能訓練Ⅰをスタートしました。

個別機能訓練Ⅰでは、「身体機能の維持・向上」を目的に取り組む個別訓練プログラムとなります。具体的には、自宅や住み慣れた地域での生活を安全に続けるために、転倒予防・筋力アッ

プ・体力づくり・バランス能力の向上や膝・腰など関節の疼痛軽減を目的に、ストレッチや可動域訓練・姿勢改善などを提供するリハビリです。

これまで提供していた個別機能訓練Ⅱでは、「買い物や散歩、食事、排泄、入浴などの日常生活活動。調理、洗濯、掃除などの家事動作や、趣味・コミュニティなどの社会参加」といった働きかけをする個別訓練プログラムとなります。

利用者やご家族に生活の中で感じて

いる困りごとを聞き、課題を見つけ、ⅠとⅡを組み合わせる事により日常生活の充実や生活意欲の増進に繋がるようなプログラムの提供を予定しています。

私たちこもれば機能訓練指導員一同の目標は、利用者の機能低下を防ぎ、今まで行えなかったことができるようになること、および生きがいのある生活や人生を送ることの実現です。同時にそれが、私たちの喜びです。目標、目的に向かい全力でサポートさせていただきます。

機能訓練指導員
鈴木 洋一



千葉市介護ロボットフェア～2020～ 「介護記録のICT化」についての事例発表

事務長
石本 春樹



10月14日、蘇我コミュニティーセンターにて千葉市役所主催の介護ロボットフェアが開催されました。そこでときわ園における介護記録のICT化について事例発表をさせていただきました(発表者:田村知之職員と石本春樹事務長)。導入から6年を経過しましたが、以下に常盤会の介護サービス提供力向上への試みをご紹介します。

ICT記録を導入した平成26年以前は、全ての記録が手書きによるものでしたが、「業務の分散効率化と記録仕様の標準化により、介護職が利用者と活動する時間を創出して適切な援助技術を発揮する環境を整え」、かつ「記録業務が産む時間外労働を解消して職員のワークライフバランスを保つ」を導入の目的とし、現在、介護記録の大部分は電子的なものとなっています。

さて、その成果はというと…、以前の「勤怠状況報告」には特定のシフトに就いた時の時間外労働の理由として、「記録」が多数あげられていました

が、現在ではそのような理由が書かれることはほぼ皆無となっています。

また、手書き時代の記録は、書き方・注目点に4つの部署でなかなか統一が難しかったのですが、現在では入力画面に沿って行うため、部署による差異がなくなり記録の質的均一化に成功しています。

そして、電子化後には記録量が圧倒的に増えました。これは、記録作業が複数のスタッフに分散され、しかも複数用意された記録端末が同時入力を可能にしていることによるものです。

それを明らかにする事象として、ある同一フロアの同じ利用者について、平成25年と令和2年の1月第3週の記録量を、記述数がいくつあるかという観点から下表に集計しました。

平成25年 (2013年)	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	合計
回数	1	1	0	2	0	1	2	7
令和2年 (2020年)	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	合計
回数	21	20	17	20	21	19	19	137

いかがでしょうか。7年を経て当該利用者の介護状況に違いがあるとは言え、およそ20倍という圧倒的な差がついたことに注目できます。福祉的援助はPDCAを伴って展開される専門的技術ですから、そのサイクルの実効力獲得の可否は記録によるところ大ですし、量から質は生まれるとするならばICT記録は自ずと優れた方式であることがうかがえます。

このように、ICT記録の導入がもたらした効果は小さくはありません。もちろん、介護サービスに直接あたるのは専門的技術者としての人であり、その質そのものがサービス提供力の本質にはほかなりませんが、引き続きインフラ整備やシステム導入、商品選定により、バックヤードからのサービス提供力向上を図ってまいりたいと思います。



事例発表をする田村知之職員と石本春樹事務長

千葉大看護学部看護研究の協力 — 歯ブラシの衛生管理方法について

介護職長
井上 宏樹



ときわ園では、根拠に基づいた介護を進めています。

「その介護を行っている根拠は」「なぜその対応を行っているのか」「その工程は必要なのか」等々、様々な事柄について、理由付けを確かなものにし説明できる介護ということです。

その一環として、昨年より業務改善に取り組んでいますが、そのうちの一つのテーマが口腔内にかかわる備品の衛生管理です。その事について見直そうと思っていた矢先、千葉大学大学院看護学講師小川俊子先生より学生の卒業研究に対して協力いただきたいという話がありました。

今回は、「歯ブラシの衛生管理について」の内容です。現状として、「消毒」・「乾燥」等々どの方法が良いのか

と模索していました。文献等で「乾燥が良い」とはありますが、今までの方法(「消毒」)を変える具体的な科学的データ等の根拠までには至っていませんでした。

そこで今回、先生とともに研究を計画した千葉大学看護学部4年生の村越麗望さんの研究テーマ「歯ブラシの乾燥による付着菌数の検討(仮題)」が、科学的データに基づく歯ブラシの衛生管理方法を模索している当園の現状と合致していることから、喜んで研究に協力させていただく事となりました。

昨年10月17日より研究の協力を開始しています。方法としては、1ヶ月間従来の歯ブラシの衛生管理方法(2週間に1回試料採取)を実施。1ヶ月後歯ブラシを新たなものに交換してから、食器乾燥機を用いて歯ブラシ

の乾燥を行い、歯ブラシの付着菌数の評価を行う方法です。

現時点ではまだ研究が始まったばかりで結果はでていませんが、根拠のある介護の一つとして、今後の結果をふまえ、口腔内にかかわる備品の適正な管理方法の構築をしていきたいと考えています。



千葉大の小川先生(左)と学生

ときわ園で「看取り」を始めて思うこと

施設長
田中 敬三



今では多くの施設が看取り介護を行っています。ある調査によりますと全国の特別養護老人ホームの78%が看取りに対応しているという報告もあります。看取りを希望される家族が増えてきているのも事実で、入所申込みの段階から「看取りをやっていきますか」と尋ねられることが度々あります。それまで住み慣れた場所で最期を迎えたいというのは自然な願いだと言えるでしょう。

ときわ園では2019年の夏から準備委員会を立ち上げて、2020年5月から看取り介護を行えるように登録し

て体制を整えてきました。そして昨年11月に最初の利用者を看取ることができました。当日の夜勤担当はまだ日本に来て1年半のEPAベトナム人職員でしたが、首尾よく対応してすべての事柄が多職種連携のもとに円滑に行われました。看取られた利用者は、ご家族と共に大勢の職員に見守られつつときわ園の正面玄関から送り出されましたが、見守る私たち職員も感慨深いものがありました。

看取りは、利用者のご家族との良い信頼関係、介護職員への研修、終末期における利用者へのケア、医師や

看護師、相談員その他の専門職との連携など様々な要素が関係していて、それらがうまく働いて初めて可能となるものです。

入所しておられる方の平均が87.8歳のときわ園、100歳を超える高齢者も幾人もおられる中でこれからも看取りのニーズは大きいといえます。引き続き利用者、そしてそのご家族と最期まで寄り添いつつ「終の棲家(ついのすみか)」としての特別養護老人ホームの役割を果たしていけたらと願っています。



活動ログ

9/29 個人情報保護研修

9月には、法律事務所First Penguinの顧問弁護士の菅田正明氏によるオンライン研修が開催され、自宅からも含めて56名という大勢の職員が参加しました。

「個人情報」とは何か、どんな情報が個人として特定されるのか、どのように個人情報を管理するのかなど、様々な事例を紹介していただきながら分かりやすく学ぶことができました。特に今は、SNS(ソ

ーシャル・ネットワーキング・サービス)が広く使われていて、パソコンやスマホなどで個人情報が流出したり悪用されたりしますので、特別な注意が必要です。とりわけ、福祉業界は職員の入退職が多い職種の一つなので、前の職場で得た情報を次の職場で使ったり話したりする危険が潜んでいます。そうした行為は罰せられたり訴えられたりすることがあります。法人と

して、個人として、個人情報の重要性をしっかりと認識し、適切に取り扱う義務があることをこの研修を通して改めて考えることができました。



10/28 外国人介護人材受入セミナー

千葉市生涯学習センターの大研修室において、千葉市主催の「外国人介護人材受入セミナー」が開催されました。パネルディスカッションにおいては、国際厚生事業団の武井幸一氏、高齢者福祉事業支援協会の湯川智美氏とともに、ときわ園の田中

敬三施設長がパネラーとして参加しました。ときわ園においてEPA(経済連携協定)によるベトナム人がすでに5名就業しており、2021年1月からは2名が加えられます。ときわ園においては、もはや外国人介護人材はなくてはならない存在となっていま

す。そうしたときわ園における取り組みの成功事例を発表する機会がありました。



11/12 安全運転表彰

11月6日付で、千葉南警察署及び千葉南地区安全運転管理者協議会より、交通安全における優良事業所として表彰され、11月12日に授与されました。

常盤会では、デイサービスこもれび送迎車を含め10台の車両を保有し、安全運転管理者の管理のもと、日々ドライバー職員は安全運転に心がけています。新職員は安

全運転管理者による安全教育を受けることになっており、朝礼等を通して安全運転教育に努めています。

表彰状に記されている通り、今後も交通安全の重要性を深く認識し職場における安全運転管理を積極的に推進し、交通事故防止に努めてまいります。



11/16 セルフケア研修 ～しなやかに変化を恐れず前に進むために～

この日は千葉産業保健総合支援センターから産業カウンセラーの近藤健義先生をお招きし、メンタルヘルス研修を開催しました。近藤先生は産業カウンセラーとして千葉県を中心にご活躍されています。

新型コロナウィルスの「こころ」に及ぼす影響を強く感じる今、セルフケアの大切さを実感できました。ストレス対処法を知る上

で、身体・睡眠・行動面からのアプローチだけではなく、精神・認知面からのアプローチを学びました。「やわらかく考える」、「ほったらかしにする」、そして「価値ある行動(大切に考える)」が大切であることが理解できました。それでも不調になった時にはどうすべきかについても考えました。

今回の研修も感染症予防のためZoom

で行いました。職場から、各家庭から、25名の職員が参加しました。今後のメンタルヘルスに役立つ内容でした。



編集後記

2020年の明るいニュースのひとつは「はやぶさ2プロジェクト」の成功です。2014年12月に打ち上げられ、小惑星リュウグワからサンプルを採取し、2020年12月に地球に帰ってきました。その快挙の大きな要因は、2003年に打ち上げられて小惑星イトカワに向かった初代はやぶさが、数々の「失敗経験」を乗り越えて2010年に戻ってくることができたからとのこと。数々の「失敗」をネガティブにとらえるのではなく、「成果」としてポジティブにとらえ、分析して未来に活かすなら、必ずプラスになるということを教えてくれました。ときわ園での仕事でも当てはめられますね。

社会福祉法人常盤会

〒266-0004 千葉県千葉市緑区平川町1731

TEL 043-291-2788 FAX 043-291-2799

<http://www.tokiwa-en.or.jp>

